



三国時代 百済の都「公州」「扶餘」

三国時代に百済(クダラ)の都が置かれた公州(コンジュ)と扶餘(プヨ)を有する忠清南道。660年に滅んだ百済の歴史遺産が現在も豊富に残っており、ユネスコ世界文化遺産に登録された「百済歴史遺跡地区」には歴史ファンをはじめ多くの観光客が訪れる。



世界の地域から

忠清南道 (大韓民国)



公州(コンジュ) - 公山城(コンサンソン)：公山の尾根と渓谷に沿って城壁を築いた公山城は、熊津時期(475～538年)の防御城であり王城。山城の中に王宮がある独特な構造となっており、百済時代以降も重要な役割を果たしていたとされる。(上)

扶餘(プヨ) - 百済文化団地：百済の歴史文化を世界に広めるために建設された韓国最大規模の歴史テーマパーク。百済の王宮を再現した泗泚宮と代表的な寺院である陵寺、生活文化村、偉礼城、古墳公園、百済歴史文化館、ロッテ扶余リゾートなどで構成されている。2006年にオープンした「百済歴史文化館」は韓国内で唯一の百済の歴史専門博物館。(下)